

平成 30 年度 「障害者対策総合研究開発事業」事後評価について

1 事後評価の趣旨

事後評価は、研究開発課題等について、研究開発の実施状況、研究開発成果等を明らかにし、今後の研究開発成果等の展開及び事業等の運営の改善に資することを目的として実施します。

2 事後評価委員会

開催日：平成 30 年 12 月 3 日、4 日、20 日、21 日

3 評価委員一覧（◎ 委員長）

（1）身体・知的等障害分野

氏名	所属・職名
中島 八十一	長野保健医療大学 保健科学部 教授 (PS)
水間 正澄	医療法人社団輝生会 理事長 (P0)
◎ 五十嵐 隆	国立成育医療研究センター 理事長
今橋 久美子	国立障害者リハビリテーションセンター研究所 研究員
大串 幹	兵庫県立リハビリテーション中央病院 リハビリテーション科 部長
尾島 俊之	浜松医科大学 医学部健康社会医学講座 教授
神宮司 誠也	九州労災病院 副院長
田中 栄	東京大学 整形外科学 教授
藤谷 順子	国立国際医療研究センター リハビリテーション科 医長
本橋 裕子	国立精神・神経医療研究センター病院 第一小児神経科医長
山内 繁	支援技術開発機構 理事長

（2）神経・筋疾患分野

氏名	所属・職名
中島 八十一	長野保健医療大学 保健科学部 教授 (PS)
平澤 恵理	順天堂大学研究科 老人性疾患病態・治療研究センター 教授 (P0)
勝野 雅央	名古屋大学大学院 医学系研究科神経内科 教授
古澤 嘉彦	国立精神・神経医療研究センター 病院 脳神経内科診療部
井原 涼子	東京大学 大学院 医学系研究科 認知症先進予防治療学
西山 和利	北里大学医学部神経内科学
◎ 御子柴 克彦	理化学研究所 脳科学総合研究センター
水澤 英洋	国立精神・神経医療研究センター

(3) 感覚器障害分野

氏名	所属・職名
中島 八十一	長野保健医療大学 保健科学部 教授 (PS)
石川 浩太郎	国立障害者リハビリテーションセンター 耳鼻咽喉科医長 (P0)
加藤 聡	東京大学医学部眼科 准教授 (P0)
飯野 ゆき子	東京北医療センター 耳鼻咽喉科 科長 兼 顧問
伊藤 壽一	滋賀県立成人病センター研究所 所長
伊福部 達	東京大学 名誉教授
尾島 俊之	浜松医科大学 健康社会医学 教授
小林 一女	昭和大学 医学部 耳鼻咽喉科学講座 教授
永井 春彦	勤医協札幌病院 眼科副科長
張替 涼子	新潟大学歯学総合病院 眼科 非常勤講師
福島 邦博	新倉敷耳鼻咽喉科クリニック 院長
◎ 本田 孔士	京都大学 名誉教授
三宅 養三	愛知医科大学 理事長

(4) 精神障害分野

氏名	所属・職名
樋口 輝彦	日本うつ病センター (PS)
池淵 恵美	帝京大学医学部精神神経科学講座 (P0)
岩田 仲生	藤田保健衛生大学精神神経科学講座 (P0)
大野 裕	認知行動療法研修開発センター
川上 憲人	東京大学大学院医学系研究科精神保健学分野
小山 司	大谷地病院 臨床研究センター
◎ 武田 雅俊	藍野大学
中村 純	北九州古賀病院
長谷川 花	沼津中央病院
和田 清	埼玉県立精神医療センター
渡邊 さつき	埼玉医科大学病院 神経精神科・心療内科
加藤 進昌	昭和大学 発達障害医療研究所 所長
加藤 忠史	国立研究開発法人理化学研究所脳科学総合研究センター

4 事後評価対象課題

(1) 身体・知的等障害分野

代表者	所属	研究開発課題名
岩崎 真一	東京大学	両側前庭障害患者に対する経皮的ノイズ前庭電気刺激のバランス改善効果を検証する医師主導治験の実施と在宅使用可能な経皮的ノイズ前庭電気刺激装置の開発
井上 剛伸	国立障害者リハビリテーションセンター	BMI および音声認識技術による障害者自立支援機器の実用化研究
緒方 徹	国立障害者リハビリテーションセンター	高い活動性を支えるコンディションの評価・管理プログラムに関する研究
猪阪 善隆	大阪大学	高齢腹膜透析患者の生活活動性を高めるための地域連携システムの構築と普及のための対策
緒方 徹	国立障害者リハビリテーションセンター	中高年期障害者の健康増進システムの開発に関する研究
浅見 豊子	佐賀大学	リハビリテーション現場で使用されている既存の福祉機器の効果検証に関する研究
葭田 貴子	東京工業大学	ウェアラブルロボット着用者の自己身体感覚と脳機能

(2) 神経・筋疾患分野

代表者	所属	研究開発課題名
渡辺 恭良	理化学研究所	イメージングと新規バイオマーカーを用いた慢性疲労症候群の客観的診断法の開発
野口 悟	国立精神・神経医療研究センター	神経・筋疾患の病態解明、革新的診断・治療法の開発に関する研究
荒木 信夫	埼玉医科大学	脳脊髄液減少症における自律神経機能異常の関与の検討
嘉山 孝正	山形大学	脳脊髄液減少症の非典型例の診断・治療法開拓に関する研究
篠永 正道	国際医療福祉大学	小児の脳脊髄液減少症の病態解明、診断・治療法の開発に関する研究

(3) 感覚器障害分野

代表者	所属	研究開発課題名
宇佐美 真一	信州大学	原因診断に基づく小児難聴の治療・療育システム構築に関する研究
小川 郁	慶應義塾大学	耳鳴の診療ガイドラインの開発に関する研究
森 浩一	国立障害者リハビリテーションセンター	発達性吃音の最新治療法の開発と実践に基づいたガイドライン作成

(4)精神障害分野

代表者	所属	研究開発課題名
古川 壽亮	京都大学	合併症を伴う精神疾患の治療に関する研究
河西 千秋	札幌医科大学	発達障害者の特性をふまえた精神科ショートケアプログラムの開発と臨床応用(修学就労支援)に関する研究
中川 敦夫	慶應義塾大学	精神疾患に起因した自殺の予防法に関する研究
功刀 浩	国立精神・神経医療研究センター	精神医療に関する空間疫学を用いた疾患発症等の将来予測システムの開発に関する研究
松下 幸生	久里浜医療センター	ICD-11「精神と行動の障害」改訂案の信頼性有用性の研究
伊豫 雅臣	千葉大学	精神科病院の入院処遇における医療水準の向上システムの開発に関する研究
福田 正人	群馬大学	精神疾患の病態を反映した鑑別診断、重症度予測が可能な血中バイオマーカーの実用化研究
渡邊 衡一郎	杏林大学	高次脳機能障害支援における血液バイオマーカーの活用に関する研究
樋口 進	久里浜医療センター	精神医学救急医学法医学が連携した危険ドラッグ使用の病態症状対応法の開発に関する研究
宮本 有紀	東京大学	医療観察法における、新たな治療介入法や、行動制御に係る指標の開発等に関する研究

5 評価項目

- ① 研究開発達成状況
- ② 研究開発成果
- ③ 実施体制
- ④ 今後の見通し
- ⑤ 事業で定める項目及び総合的に勘案すべき項目
- ⑥ 総合評価

6 総評

本研究事業では、4つの分野(身体・知的等障害、神経・筋疾患、感覚器障害、精神障害)において、①障害者の地域社会での共生の実現や社会的障壁の除去につながる技術開発等の研究、②障害を招く疾患等についての病因・病態の解明、予防、診断、治療法、リハビリテーション法等の先進的・実践的な研究、を推進します。

今回の事後評価対象となった4分野 25 課題については、「計画を超えて大変進捗」と評価された課題は3 課題、「計画を超えて進捗」と評価された課題は9課題、「計画どおりに進捗」と評価された課題は 11 課題、「当初見込みの成果が得られていない」と評価された課題は2課題となりました。

(以上)